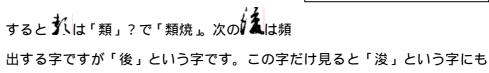
文章を読む3

(G)

前回の続きです。(G)の最初の字がの旁くに見覚えはあ

りますか。これは「願」「頭」と同じ「頁」で

す。次の くしょ、 倫はよくわかりませんが、 旁端 は「尭」でしょう。旁が「尭」の字は限られ ていて「焼」くらいしか思い当たりません。



門差與一仍里方打了大金城的人為

見えます。「類焼浚」と「類焼後」では「類焼後」の方が自然でしょう。 (H)はうしは「引」、 **後**は前回出てきましたが「続」、次の **は**は重要で す。偏の \hat{t} は $\hat{1}$ と書かれています。 \hat{i} と書かれることもありますが、これ が「言」(ごんべん)です。今も中国の略字ではりと書きます。 たの 旁の 上の方は、チと書いてありますので、言倫と合わせると「諸」となります。 次の
は「色」です。難しい崩しですが「諸色」(様々な物という意味) という言葉は頻出する言葉です。 るという感じですが、「高」とい う字です。江戸時代は「石高」といって米の量で土地の価値などを測りま したので、「篙三路若」など、よく出てくる字です。次の きょーという 感じはつかめると思いますが、「直」という字です。「高直」でなんと読む

かというと、「たかね」と読みます。「直」は「値」という字の代わりに使っているのです。

(H)をまとめると、「引続諸色高直(値)」(引き続き諸色高値)となります。

最後に左の字ですが、これは「旁」という字で「かたがた」と読みます。割 とよく出てきます。

この文書を読み出して、3回が過ぎましたが、まだ3行目です。こんなペー スで大丈夫か心配になりますが、基本的な考え方や読み方を学び、コツをつかんで、読む のに慣れてくると、もっと速いペースで読めますので、焦らずにやることが大切だと思い ます。

